

## (2) 再編検討図書館の設定

### ①集約化対象図書館の設定

「利用圏域の重複割合の大きさ」、「建設年からの経過年数」及び「近年の貸出冊数の推移」等を考慮して集約化の検討を行う。

○鶴川図書館と鶴川駅前図書館

○さるびあ図書館と中央図書館

### ②複合化対象図書館の設定

8館の図書館のうち、上記鶴川図書館とさるびあ図書館を除くと、単独館は木曾山崎図書館、金森図書館の2館であるため、今後、複合化の方向性の検討を行う。

## (3) 再編検討図書館の方向性

### ①集約化対象図書館の方向性

i) 鶴川図書館と鶴川駅前図書館 **短期** 2018～2026年度  
URの建替えにあわせて鶴川駅前図書館に集約する方向で検討する。

#### ◆鶴川図書館の利用状況

○貸出冊数：8館中第7位

○鶴川団地周辺の住民の利用が多い

○2016年度の貸出数は2011年度の42.9%

#### ◆市民の声

○「鶴川図書館を鶴川団地センター商店街の中に存続させることを求める請願」採択(2017年9月)

○「ワークショップ鶴川地域図書館のこれから」(2018年5月)

ii) さるびあ図書館と中央図書館 **短期** 2018～2026年度  
さるびあ図書館の独自機能(移動図書館車運行、学校図書館・団体支援)の継続に留意しつつ、周辺の公共施設である保健所やすみれ教室の建替え等も視野に入れながら検討を継続する。

#### ◆さるびあ図書館の利用状況・独自機能

○貸出冊数：8館中第5位

○2016年度の貸出冊数は2011年度の68.9%

○町田市南部・東部地域を巡回する移動図書館車2台を運行

○学校図書館や団体等への支援

#### ◆市民の声

○「町田市立さるびあ図書館の存続を求める請願」採択(2018年3月)

### ②複合化対象図書館の方向性

i) 木曾山崎図書館 **中期** 2027～2036年度

建設年から40年以上が経過しているため、今後複合施設としての整備を視野に入れて改築等機能更新を検討するものとする。その際、木曾山崎コミュニティセンター等をはじめとした、周辺の公共施設等の建替え計画等にあわせて、複合化について検討するものとする。

ii) 金森図書館 **長期** 2037～2055年度

1999年の建設であり耐用年数は今後40年間であり、金森都営第11団地の建替え等がない限りは図書館の移転等の議論は現実的でないことから、当面は現状維持とし、長期的観点で検討する。